

宮本邦明生命環境系教授がマレーシア防災関連教育研究プログラム推進指導のため来訪

宮本邦明教授（生命環境系、持続環境学）が2015年6月4日と5日にマレーシア政府がUniversiti Teknologi Malaysia (UTM: マレーシア工科大学) 本校を介して MJIT で計画・推進している防災関連の研究センターおよび修士課程の設立への助言のため、JICA の招聘により MJIT に来訪した。

マレーシアでは、2015年12月末にマレーシア北東部のクランタン州で発生した過去30年で最大とされる洪水被害により防災意識が高まり、地滑りや水害に対応するための様々なプロジェクトが政府主導で進められている。特に政府の命を受けて UTM では、MJIT を主体として、防災関連の人材育成のための修士プログラムの立ち上げと防災研究センターの設立の2つのプロジェクトが計画されている。これらを推進するにあたり、マレーシア政府から JUC の加盟大学の中で防災関連の研究と教育に適切な助言ができる人材紹介の依頼を受けた杉浦特命教授により、筑波大学の宮本教授が推薦された。それを受け本年4月にルビア院長らが筑波を訪れた際に宮本教授を訪問し、教授の協力が得られるに至った。今回の来訪では、先ず教育プログラムについて話し合いが持たれ、教育の方針やカリキュラムの内容など細部にわたる検討がなされた。また、防災に関する研究センターについては効果的な構成やプロジェクトの進行について意見が交わされた。最終日の午後には宮本教授による講演が行われ、台湾やインドネシアでの事例が紹介された。特に台湾の研究センター設立の事例はマレーシアにおける設立の参考事例となることから、参加者は興味深く聴講していた。宮本教授は、「台湾などではボトムアップで事業が行われて時間がかかったが、本事業は政府からのトップダウンで進んでいるのでより迅速かつスムーズに進行し、東南アジアの防災の核となるよう期待している」と述べられた。

2日間の滞在でランチオンミーティングを含む5つの会議出席と講演発表を行うという非常にハードなスケジュールであったにもかかわらず、宮本教授は精力的に日程をこなし、翌6日に筑波に戻られた。今後も MJIT での本事業について助言と協力が予定されている。



記念撮影（前列左：杉浦教授、宮本教授、ルビア院長、小林副院長。後列左：三宅教授、後藤教授、プラミラ講師、梅宮准教授（JICA）、岩本准教授、大島准教授）



発表中の宮本教授



KL オフィス前にて（左から杉浦教授、宮本教授、岩本准教授（文責））